

『ハタオリマチ案内所』に ウインドウディスプレイ完成！

富士吉田織物協同組合

富士北麓の郡内地域は古くから織物が盛んで、郡内織物と呼ばれ、その中で富士吉田織物協同組合（渡辺教一理事長 組合員 205 社）が、産地振興の中心的役割を担ってきた。

組合では、共同宣伝事業、共同販売事業を大きな柱として活動している。共同宣伝事業では、「東京国際ナショナルギフトショー」「インテリアライフスタイル展」への出展や、イタリアで行われる「ミラノユニカ展」へも5年にわたって出展を続けており、織物産地としての知名度も高まりつつある。

共同販売事業では、「道の駅富士吉田」「富士急百貨店」「ゲートウェイジヤマ河口湖売店」など県内 15 か所の常設展示販売場で組合員の独自性を生かした、ネクタイ、傘、スカーフなどの各社オリジナルの製品を販売している。

こうした共同宣伝事業や共同販売事業の拠点として、組合では昨年 5 月に国内外からの観光客で賑わう富士急行線の富士山駅横に組合事務所を移転、『ハタオリマチ案内所』を開設し、観光客を対象に



完成したウインドウディスプレイ

積極的に情報発信と展示販売を行ってきた。今年からはウインドウディスプレイも完成し、行き交う観光客に来館してもらえるようパワーアップを図った。

渡辺理事長は、「ウインドウディスプレイの完成で『ハタオリマチ案内所』の機能の充実が図れた。今後も共同宣伝や共同販売を強化し、組合員のOEMからの脱却や自社ブランド化に繋げ、織物産地の生き残りに取り組んで行きたい。」とウインドウディスプレイの完成への期待を語った。